『医学洋書総合目録』の誕生

——ユニオン・カタログ小史——

Birth of the “Union Catalog of Foreign Medical Books” : Short History of the Union Catalog

(6) 第33回総会 (昭和37年) —第35回総会 (昭和39年)

堀 江 幸 司* 山 根 京

東京女子医科大学図書館

Horie, K., Yamane, K. : Birth of the “Union Catalog of Foreign Medical Books” : Short History of the Union Catalog. *Igaku Toshokan* 33(1) : 58-65, 1986.

The Japan Medical Library Association was established in 1927, and its major role is interlibrary loan activities. Arranging the “Union Catalog” of journals and books (holdings list), which is based on the interlibrary loan activities, is one of the basic tasks of the Association. As for the “Union Catalog” of foreign medical books, a total of eight volumes of the “Union Catalogue of Foreign Books in the Libraries of Japanese Medical Schools” was published from 1949 to 1956. This so-called “Union Catalog” has been edited by using a computer from 1977 up to the present. This study reports the history of the “Union Catalog”.

前回までの目次

- (1) 第10回総会 (昭和11年) —第20回総会 (昭和24年)
—「インフォメーション・ビューロー」と「Union Catalogue」¹⁾—
I. はじめに II. 第10回総会 (昭和11年) —第20回総会 (昭和24年) —「インフォメーション・ビューロー」と「Union Catalogue」—
- (2) 第1回総会 (昭和2年) —第15回総会 (昭和18年)
—史料 (総合写真, 協議題・承合事項) —
(2)-1. 第1回総会 (昭和2年) —第6回総会 (昭和7年)²⁾
(2)-2. 第7回総会 (昭和8年) —第11回総会 (昭和12年)³⁾
(2)-3. 第12回総会 (昭和13年) —第15回総会 (昭和18年)⁴⁾
(3) 第21回総会 (昭和25年) —第26回総会 (昭和30年)⁵⁾
III. 『Union Catalogue 増加編』作製計画—「インフォメーション・ビューロー」の終焉—
(4) 第27回総会 (昭和31年) —第29回総会 (昭和33年)⁶⁾
IV. 東大事務局時代
1. 「総合目録増加編編集刊行委員会」の設置と「Information Service」への転換
(5) 第30回総会 (昭和34年) —第32回総会 (昭和36年)⁷⁾
2. 「Information Service」東大から「医学文献センター」(慶応) の設置へ

* Koji HORIE : Tokyo Women's Medical College Library. 10 Kawada-cho, Ichigaya, Shinjuku-ku, Tokyo 162, Japan.

(昭和61年1月20日 受理)

1) 医学図書館, 30(4) : 342-351, 1983.

2) *ibid.*, 31(1) : 12-25, 1984.

3) *ibid.*, 31(2) : 153-167, 1984.

4) *ibid.*, 31(3) : 237-250, 1984.

5) *ibid.*, 31(4) : 361-370, 1984.

6) *ibid.*, 32(2) : 197-207, 1985.

7) *ibid.*, 32(3) : 272-281, 1985.

2. 「Information Service」東大から「医学文献センター」(慶応)の設置へ(つづき)

第33総会は昭和37年(1962)10月15日(月)から18日(木)までの4日間、奈良県立医科大学附属図書館を当番館として開催された。当番館長は鎌倉勝夫、事務主任は上野 先であった。鎌倉館長は、昭和22年(1947)、当時の徳島医専から奈良医専の教授として着任して以来、図書館長(初代)となり、医科大学附属図書館協議会に加盟することを一つの目標としていた。昭和26年(1951)、第22回総会(熊本)で加盟が認められたあとは、毎年のように協議会に出席し、司書とともに観光旅行にも同行したこともあった。

総会および懇親会の会場となった橿原会館(建国会館)は、昭和初年御大典の際のしせん場をそのままのかたちで移築したもので、1,000人は収容できる場所であった。記念写真は、この橿原会館前で撮られている。各総会の記念写真は、第31回総会(東医)から『医学図書館』誌上に掲載されるようになった。しかし、この第33回総会の写真は掲載されていない。そこで今掲載しておく。

この第33回総会では、総会資料のひとつとして、『日本医学図書館協会35年略史』(An outline of the Japan Medical Library Association 1927-1961)が配布された。これは、上野が「議事を進めて行く上に過去においてどんな議事が議せられ又どんな事項が承合されたか、これを知ること、は、決定的に必要なことであろうし、この会の進むべき方向を示唆する有力な資料でもあり得るだろう」として、私家版のかたちで編集したものであった。

当時、本協会には、30年史を編集する目的で第13委員会=日本医学図書館協会史編集委員会(東大、阪大、東北、熊本、新潟、群馬、慈恵、北大、慶応)が設置されていた。だが、『日本医学図書館協会史』は、実現できないままだった。今では、この上野によって編集された『35年略史』は、戦前に発行された『醫科大学附属図書館協議會 第1輯 第1回-第10回 昭和2年-昭和11年』(醫科大学附属図書館協議會 昭和12年)とともに、本協会の歴史を知る上で、貴重な資料のひとつとなっている。

上野は、総会終了後、司書会議出席者からカンパを

写真1. 第33回日本医学図書館協会総会(奈良)

募り、奈良県立医科大学附属図書館の南北両側に、ヒマラヤ杉をそれぞれ一本ずつ記念植樹した。¹⁾『35年略誌』で本協会の足跡を辿り、ヒマラヤ杉の植樹で、その後の本協会の成長を願ったのであろう。現・奈良県立医科大学附属図書館の主任司書である吉本瑞応氏にお尋ねしたところ、このヒマラヤ杉は、まだ残っているとのことであった。来年、昭和62年（1987）は、本協会の創立60周年目にあたる。上野によって記念植樹されたヒマラヤ杉は、30年近くもの間、本協会の歩みを見つめ続けてきたことになる。上野は総会当番館の主任司書としての大任を果たした後、あくる昭和38年（1963）4月11日逝去された。²⁾

当時、本協会の会長であった緒方富雄（現・名誉顧問）は昭和37年（1962）3月をもって東大を定年退職し、それに伴って医学図書館長を退いていた。そこで、この第33回総会において会長改選が行われることになり、慶応の牛場大蔵教授（現・名誉顧問）が当選した。草間良男（初代、慶応）、緒方富雄（2代、東大）に続く第3代日本医学図書館協会会長の誕生である。緒方富雄は、昭和29年（1954）の秋から、約8年間会長を務めたことになる。この間、日本医学図書館協議会を日本医学図書館協会に脱皮させ、また日本の医学図書館を国際的なものにすることに尽力した。これらの功績によって緒方富雄前会長は、総会1日目の10月16日に名誉顧問に推薦され、全会一致で承認されている。

順天堂からは渡邊正亥が副館長（翌年から専任館長）として出席していた。渡邊は新潟の出身で、第1回協議会（新潟、昭和2年〈1927〉）に当番館の一員として出席したことがあった。この第33回総会が開催された昭和37年（1962）当時、渡邊は、同じく新潟医科大学において附属図書館長を務めたことのある有山登順天堂大学学長（現・学頭）の要請によって、新潟県立図書館長を退き、順天堂大学図書館に迎えられていたのである。

渡邊については以前「トリミング」欄で取り上げた。³⁾現在は習志野から柏市花野井1890-16（柏ビレジ32-18）へ移られている。写真は昭和61年1月4日、先生をお訪ねした折のスナップである。

中央事務局の中里龍瑛は『ユニオン・カタログ増加

写真2. 牛場大蔵＝第3代会長

写真3. 渡邊正亥

編』に関して、第2委員会(東大、慈恵、名大、横浜、新潟、慶応)を代表して、以下のように述べた。

「……洋書単行本の増加カード(約10万)は繰込みと所蔵大学名などの記入をおえて、大雑把ながらある程度の整理を終わり、双書・全集カードなどを調整する段階になっていながら、適当な人と費用を得ないままになっておりました。この増加編およびインフォメーション用の本年度の原稿としてお送り頂いたカード枚数は表の通りです。……」

この時期は、「ユニオン・カタログ」用の原稿カードは定期的に収集されてはいたが、編集作業自体は進捗をみなかったようである。

第34回総会は、昭和38年(1963)8月27日(火)、28日(水)、29日(木)の3日間、弘前大学医学図書館を当番館として開催された。会場は文理学部講義室であった。27日の司書会議では第2回国際医学図書館会議の参加報告を出席者(緒方富雄<東大>、裏田武夫<東大>、福留孝夫<慶応>、谷口真弓<慶応>、藤井和夫<阪大>、長尾公司<東北>、中山勇之助<新潟>、沙藤隆茂<九大>)を代表して、裏田が行っている。報告中、長尾撮影のスライドも映写された。総会2日目の8月29日午後4時30分から午後6時30分まで、弘前相互銀行クラブ庭園において、懇親野外パーティが企画された。その時のスナップ写真が実に楽しい。岡山の熊本孝志氏(故人)、東大の裏田武夫先生(現・名誉顧問)らが弘前美人と肩を並べている。

本協会創立者のひとり三宅次吉(金沢)⁴⁾が、梅枝軍二(群馬)(現・名誉顧問)の提案によって名誉顧問になったのもこの総会であった。これは、翌昭和39年(1964)3月をもって金沢大学附属図書館医学部分館を停年退官することになった三宅の本協会への長年の功績に対するものであった。また、オブザーバーのかたちで毎年のように総会に参加していた松田シズエ(広島 ABCC)には感謝状が送られている。

この総会では、「本協会の機構整備に伴う運営面の刷新が新会長〔牛場大蔵〕のもとで、どの程度進捗するか、またそのための事業計画と予算案がそのように組まれる」⁵⁾かに焦点がしぼられていた。

前回の総会からの懸案事項として中央事務局の細則

表. 昭和37年度「ユニオン・カタログ」増加カード受取枚数

大学名	受 取 枚 数	
北 大		
札 幌		
弘 前	136	(95)
岩 手		
東 北		
福 島		(166)
群 馬	367	(342)
千 葉	549	
日 大		(367)
日 医		(264)
東 大		(470)
順 天	250	
医 歯	729	
慶 応		(799)
東 医		(794)
東 女		(116)
慈 恵		(281)
昭 和	281	(187)
東 邦		
横 浜		
新 潟	680	(446)
信 州		(480)
金 沢	430	
名 大	481	(洋533)
		(和212)
名 市		
岐 阜		
三 重		
奈 良		
京 大		(477)
京 府		(236)
関 西		(119)
阪 医		
阪 大	516	
市 歌		
神 戸	72	(121)
徳 島		(64)
岡 山	322	(洋451)
	493	(和776)
		(368)
広 島	624	
鳥 取		(577)
山 口		(150)
久 留	1170	(636)
九 大	429	(洋529)
長 崎	363	(和 72)
熊 本	1187	(294)
	2134	
鹿 児	451	

昭和37年(1962)10月7日現在。()内は昭和36年度。

写真 4. 第34回総会（弘前）懇親野外パーティ

左から梅枝軍二（群馬）、松田シズエ（広島 ABCC）、石川元子（慈恵）

案が理事会を代表して長尾公司理事（現・名誉顧問）から提案され承認された。本協会の事務局制が細則というかたちで成文化された意義深い機会であったといえる。中央事務局は「当分の間、東京大学医学図書館（東京都文京区本富士町1番地）内に置く」ことになり、中央事務局の業務を統括するために事務局長（Executive Secretary）が置かれることになり、東大副館長の裏田武夫が会長から委嘱された。戦後から一貫して中央事務局の中心人物のひとりとして、本協議会（協会）の仕事を一手に引き受けていた中里龍瑛（東大）は、その業務を裏田中央事務局長に引き継ぐこととなる。

この第34回総会では、「ユニオン・カタログ」関係の協議題として中山勇之助（新潟）から（古医学書目録作成の件）が提出された。その提案理由は、「本邦各地に散在する古医学に関する特殊資料を把握し、相互利用を図るため、総合目録の編集発行を協会において行いたい」というものであった。洋書単行本の所在目録は新潟の手によって『Union Catalogue of Foreign

Books in the Libraries of Japan Medical Schools』

（全8巻）として出版されていた。しかし、これに和書は含まれておらず、今回の新潟からの提案は、和書のうち「翻訳書も含んだ和漢書」に限って、その所在目録を協会の手によって編集しようというものであった。この新潟からの提案以前に和書の所在目録作成に関する協議題は、過去3回提出されたことがあった。それは、第9回協議会（名大）（昭和10年〈1935〉）において東北（吉岡孝治郎）から提出された「本邦古医学の書目及び書誌目録作成の件」、第15回協議会（東大）（昭和18年〈1943〉）において千葉（北村清）から提出された「皇漢医学共同目録編纂の件」、および第18回協議会（東北）（昭和22年〈1947〉）において熊本（宮川喬次）から提出された「和書総合目録の計画について」であった。

審議の結果、東北、千葉、熊本および新潟が検討して改めて総会に提出することになった。

裏田武夫（中央事務局長）、中山勇之助（出版担当理事）の行った報告のなかには、「ユニオン・カタログ」関係のものは含まれていなかった。「単行書目録編成委員会」（第2委員会）は、担当者（中里龍瑛）欠席ということで総会后、理事会で処理されることになる。

第35回総会は、昭和39年（1964）10月2日（金）、3日（土）、4日（日）の3日間、広島大学附属図書館医学部分館を当番館として開催された。当番館長は数野太郎、事務主任は片川護夫であった。

総会最終日の観光は宮島および錦帯橋であった。錦帯橋は日本一美しいといわれている橋のひとつで、当日はこの橋の下で昼食がとられている。

開会式では、新潟附属図書館医学部分館の中山勇之助に『医学雑誌総合目録と文雑誌編 第4版』の編集の功績に対して牛場大蔵会長から感謝状が贈呈されている。小沼医学図書館賞が制定されたのもこの総会であった。この小沼医学図書館賞は、ペリオディカ・ヤポニカ社長の小沼一成氏が、年間に発表された医学図書館関係論文のうち最優秀作1編に賞金10万円を贈るというものであった。現在の日本医学図書館賞・奨励賞の前身となるものである。第1席には関口昌樹（慶応）「文献スクリーニング(1)(2)」が選考され、第2席

写真 5. 第35回総会観光＝錦帯橋で，中山勇之助（新潟，故人）（左），梅枝軍二（群馬）（右）

には朴木貞子（北野病院）「病院図書室－Reference Work 以前」，大沢充（慶応）「アメリカにおける部局図書館制度の諸問題」，植松和彦・丸谷洽一（東大）「WHOの刊行物」，大木利夫（東大）「明治初年に発行された日講記聞について」，尾原忠雄（徳島）「レファレンス・ワークー徳島大学医学部の概況」の5点が選考され，表彰された。

総会において『Union Catalogue 増加編』の編集の進捗状況については，第2委員会報告のかたちで，事務局の中里龍瑛が行うのが常であった。しかし，この総会では，『Union Catalogue 増加編』についての協議議題が，第29回総会（名古屋市）（昭和33年〈1958〉）以来6年ぶりに提出され，正式議題として取り上げられ審議されることになった。それは，九州地区からの提案で，「ユニオン・カタログ原稿の報告カードの整理促進について」というものであった。当時，『Union Catalogue 増加編』用のカードは東大事務局において，あらかじめの整理は終えていたが，人手不足と叢書（シリーズ）カードの取り扱いが問題となり，具体的な編集作業は進んでいなかった。そこで，今回の九州地区からの協議議題提出となったのである。九州地区を代表して九大の山川幸雄は次のように述べている。

「……中央事務局の事情もよく分かるのであります。

人手不足，或いはまたその他経済事情，しかしながら折角新潟医大の努力によって41年までの立派なユニオン・カタログが出来ておりますけれども，その後の約10年間に約10万枚のカードが集まっておりながら，それが充分なる活用ができていないという事実，これは41年まで活用されて後が充分活用できないということは，半身不随の人間みたいなものと思われまして。そこで，これは多少言葉がすぎますけれども，この問題は九州ブロックだけが期待しその整理を要望するのではなくて，恐らく全国共通の問題と思ひますし，また日頃文献の検索に直接あたっている者にとりましては，このレファレンス・ツールの手入れやインフォメーションの管理ほど大きく期待されるものではありません。……まだ第2委員会＝総合目録増補編集刊行委員会というのが解消されていなければどうかひとつ，この委員の方々も協力していただいて，先程申しました何らかの方法，具体的な実行案を是非，この機会に促進していただきたいというのが，私ならびに九州ブロックの願いであります」

九州地区からの提案ではあったが，相互貸借業務の一環として洋書の所在調査を担当している者にとっては，東大の「Information Service」を活性化させることは，一様に切実な問題であった。『Union Catalogue 増加編』の具体的な実行案を作成して，その実現にむけて第2委員会を再開させること，これが今回の九州地区からの提案であった。この提案に対して裏田事務局長（東大）は理事会を代表するかたちで，以下のように回答している。

「……昨日の晩また緊急に理事の皆さんに相談いたしました。結局次のように万止むを得ず処理する事に致しました。……ともかく今までに集まってきたカードをそっくり慶応にお渡ししようと，そして洋書の単行本に関する限り全て慶応に対して，相互貸借，文献利用のカードの往復葉書がありますから，あれで照会すれば，慶応が一応洋書に関する限り単行本のインフォメーションセンターになるという事になります。段々そういうふうに各館で少しずつ協力のセンターを分散した方が，かえっていいのではないかと思います。けれども，慶応大学の方では非常に犠牲を払って

くださって、取りあえず いま〔慶応の〕カード〔ケース〕の空きがあるからそれを使おうと、しかし行く行くはやはり、そういうものは協会の財政で処理しなければいけない事だろうと思います。取りあえず慶応の備品をお借りして、慶応にインフォメーションセンターを移そうという事になっております……」

当時の理事会は、雨宮祐政(医歯)、藤井和夫(阪大)、中山勇之助(新潟)、津田良成(慶応)、原三郎(東医)、長尾公司(東北)、裏田武夫(東大)の7名で構成されていた。理事のひとり慶応の津田良成は、東大の「Information Service」を引き受けるにあたって、次のように述べている。

「……まず第1に今までお送りになったカードが何年までお送りになったか、私のところに一応ご連絡いただきたいと思うのでございます。……それからもう1つ、これはお願いでございますが、ファイルその他ある程度の時間がどうしてもかかるだろうと思います。これがまた出来上がった上でもって皆様方のご協力をお願いしなければならないと思います。……これが協会の仕事として発展するようにご協力をお願い致します」

この時期になると、東大事務局では、『Union Catalogue 増加編』の提出カードについて、その管理が充分でなく、どこからどのように送られてきているのかを、正確に把握できていなかったようである。それは、また慶応の関口昌樹が、事務手続き上の問題として事務局備品のカードケースについて次のように質問したことにもうかがえる。

「……今、東大で使用されている〔カード〕ケースの中に幾分かは協会の経費で買ったものと聞いております。現在全部かどうかは知りませんが、少なくともあの幾つかは協会の経費で買ったものと思います。その点をもう一度はっきりさせたいと思うのです。……」

今回、掲載した関口^{まさき}昌樹の写真は、この総会の10年後、昭和49年(1974)2月28日慶応義塾大学医学情報センターの事務室で撮られたものである。奥様の関口静子さん(旧姓駒井)から借受した。関口静さんは、第35回総会が開催された昭和39年(1964)当時、日本

写真6. 関口昌樹 (1918-1974)

医科大学図書館の司書で本総会には、ご主人の昌樹氏と一緒に参加されている。昌樹氏は、この撮影が行われた3日後、昭和49年(1974)3月3日に急性心不全で急逝されている。

津田、関口の慶応からの要望に対して事務局長の裏田は、以下のように回答している。

「……実は、この件については前任者から何も引き継ぎを受けておりませんので、大変不手際で申し訳ないのですが、財産目録の引き継ぎもしておりませんものですから、そういうお叱りを受けると、私ちょっとドギマギしてしまうのですが、なおよく調査して使えるものがあるかどうかということを、私共引越しをしてどれがどうなのか分らない備品も若干ありますので、なお帳簿を調べるといっても帳簿がないので調べようがないのですが、一応ははっきりさせてご納得いくようひ処理いたしたいと思います。……」

従来の「ユニオン・カタログ」は、主に国立の名大と東大を中心にして動いてきた。しかし、この総会以後、それは、私立の慶応を中心に新たな歩みを始めることになる。この洋書単行本の所在情報の提供を目的とした「インフォメーションセンター」の設置には、東大と慶応のそれぞれの立場での英断が感じられる。この慶応の「インフォメーションセンター」(のちの「医学文献センター」)の活動が、その後の相互貸借活動に大きく貢献したことは、明らかである。加盟館のみな

らず、外部団体からも高く評価されてきたといっ
てよい。

昭和39年(1964)12月10日「ユニオン・カ
タログ」用の原稿カードを東大事務局から慶
応義塾大学北里記念医学図書館に移転—。⁶⁾昭
和31年(1956)に名大から東大へ移管され
た「ユニオン・カタログ」の業務は、東大で
の活動を停止し慶応へと引き継がれること
になるのである。

(以下次号に続く)

引用文献

- 1) 上野先: ニュース・各地だより, 医学図書館, 9
(6): 73, 1962.
- 2) 齊藤宗一(北大), 上野先(奈良)両司書逝く, 医

学図書館, 9(6): 74, 1962.

- 3) 堀江幸司: 日本医学図書館協会創始者のひとり
渡邊正亥(トリミング), 医学図書館, 31(3): 298,
1984.
- 4) 梅枝軍二: 三宅次吉名誉顧問のご逝去を悼む,
JMLA 会報, No. 44: 14-15, 1977.
- 5) 雨宮祐政: 議事とその経過(特集・第34回総会),
医学図書館, 10(6): 191-195, 1963.
- 6) JMLA NEWS. 医学図書館, 12(1): 56, 1965.

ページ数の都合で「参考文献・資料」は連載終了時
に一括して掲載します。(前回までのものは, 32(3):
277-279, 1985. に収載)

原稿送付先変更のお知らせ

編集委員長の交替にともない、投稿先が
下記へ変更となりましたのでお知らせ致し
ます。

今後共、ふるってご投稿下さい。

またコラム〈Q & A〉への質問もお待ち
しています。

記

〒321-02

栃木県下都賀郡壬生町北小林880

獨協医科大学図書館

河合輝道

電話 0282(86)1111 内線2084